

医学部保健学科



保健学研究科の 改修工事を見つづけて

医学部保健学科

助教 澄川 幸志

(平成17年 作業療法専攻卒業)

私の所属する保健学研究科の改修工事も多少の遅れは見られるものの、ついに第三期の工事が始まりました。第三期の工事はA棟(事務室、大会議室、小会議室などがあつた建物)とB棟(検査技術科学専攻の実習室、看護学専攻の実習室などがあつた建物)の工事であり、それに伴つてA棟、B棟に研究室のある先生や、学務グループ、総務グループといった事務機能も移転となりました。私の研究室のあるD棟は第一期の工事であり、工事終了から一年以上経つのですが、工事終了早々に床の塗装がはがれ、一年経たずして再度床の張り替え工事を行ったのも、今は良い思い出となりました。

前述のように幾多の改修を行ってきた保健学研究科ですが、個人的に一番よかったと思う改修は医学部附属病院と総合研究棟とを結ぶ渡り廊下の建設です。たかが渡り廊下と思われるかもしれませんが、その利便性に関しては保健学科の卒業生ならわかることかと思ひます。私の学生時代には医学部附属病院への実習の際には必ず外を通り実習に出かけており、特に冬季になると白衣の上からコートなどを着て、凍結した路面で滑らないように実習に出かけていました。そのような状況でしたので、学生時代には「医学部附属病院と医学科は渡り廊下でつながっているのに、なぜ保健学科はつながっていないのだろうか?」と不思議に

思つたものでした。結局、私が学生の間には渡り廊下は建設されなかったのですが、今も実習などで医学部附属病院に出かける際には渡り廊下を使わせてもらつており、その都度「昔に比べて便利になったな」と実感しています。

書籍をすぐに閲覧できないという不便さは学生も感じていたようです。教員の立場としても論文の執筆や講義資料の作成などで書籍が必要な際には医学部分館まで取りに行くことになるので若干の不便さは否めません。改修工事は今年度で終了となるようですが、数年後には何かしらの改修工事が行われるかと思ひます。その際にも今の面影を残し、卒業生が来校したときに「懐かしい」と思えるような改修工事にしてもらいたいと思う次第です。

一方、建物の改修で便利になった反面、不便になったという声も学生からは聞かれていました。よく聞かれるのが、図書館がなくて不便だといった声が聞かれます。以前は保健学科内にも保健学科分室という形で図書館がありましたが、数年前より、医学部分館に統合されました。医学部分館までの距離は遠いというほどではないとは思ひますが、必要な時に必要な

保健学科の改修は順調に進んでおります。お近くにいられた際には是非お立ち寄りください。

同窓会から

同窓生の皆様、普段からご支援ありがとうございます。現在、理工学研究科は六五年に文理学部から改組されて以来、二〇一五年で五十年を迎えます。この半世紀に渡つて、理学部として一九九七年からは理工学部に対してご尽力いただいた数多くの関係者の方々に深く敬意を表したいと思います。私は弘前大学理学部助



理工学研究科 五十周年に際して

理工学研究科長 宮永 崇史

(理学部・理工学部創設五十周年記念事業実行委員長)

球科学科、一九八七年に情報科学科が新設されました。さらに一九九七年に理工学部へと再編され、さらなる発展を遂げます。この改組を機会に生物学科が農学生命科学部に移行しますが、新たに機械工学系の学科を加え、理工融合を目指した国立大学としては当時珍しかった理工学部としてスタートします。二〇〇六年にはさらに理工学部内の学科改組を行い、二〇〇七年に国立大学が法人化されます。現在の学生数は学部定員三百名、大学院定員九十八名、教員数約九十名の規模となつています。そしてまた、理工学部ではこれまで以上に地域のニーズにこたへるため、大学改組と連動した新たな再編が現在進行中です。このように五十年目の節目に再び新たなスタートを切ることも何かの因縁かもしれません。

さて、理工学部はこのように創立五十年に際して記念事業を計画中です。この半世紀の歴史を振り返るにふさわしい事業になればと願っています。そのためにも、何卒多くの同窓生、卒業生および関係者の皆様のご参加を期待する次第です。現在の段階では次のような事業内容を検討しています。

同樹会だより

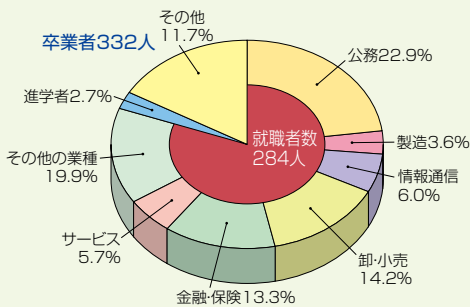
理工学部同樹会は、昭和二十四年、弘前大学創立時の文理理学部理学科の卒業生、昭和四十年設置の理学部の卒業生、平成九年設置の理工学部の卒業生、並びに大学院修了生を束ねる大きな会です。本学創立以来幾度か、理系学部や学科、また関連大学院の組織改組がありました。この弘前の同じキャンパスにて理学を根っこに学問に励み、社会に巣立つべく若葉を茂らせた同士を束ねる会を意味して「同樹会」と称しています。

平成25年度 卒業生

支援センターの努力実る

弘前大学学生就職支援センターが大きな成果を上げています。学生の就職率が平成二十年度から各学部とも九〇%を超す好成績です。特に二十六年三月の卒業生は就職希望者九百十九人中、就職者は八百九十五人で、就職率は九七・四%という過去最高の記録に

人文学部



業種別を見ますと、人文は公務員がトップで続いて卸・小売、金融・保険業、情報通信業と続きます。教育は就職者のうち、教員が過半数を占め、公務員と続きます。医学(保健)はほとんどが医療・福祉でした。理工も公務員が多く、次が情報通信業、製造業です。農学は公務員、卸・小売、製造業の順です。

記念式典、記念講演、 記念パーティ

日時

平成27年

10月17日、18日

詳細は追って
ご連絡いたします

年、前述の理工学研究科長の記事のとおり、理学部・理工学部創設五十周年記念事業が実施されます。同樹会としても、この記念事業への参画、協力をいたします。

農学生命科学部



農学生命科学部
名誉教授 神田 健策

国際化の中で 活躍する卒業生

大学の国際化、グローバル化が言われて久しい。本学もそれに向けてイングリッシュ・ラウンジ、はやぶさカレッジ、新しい専攻（コース）の設置構想など、取り組みが進められている。

私の専攻は農業経済学であるが、一九八〇年代の半ばから米の自由化が叫ばれ、一九九五年から米輸入が義務づけられた。

この頃から外国農業事情を見聞し、研究教育に活かすことが課題となった。

一九九四年に本学と姉妹大学第一号であるUTM（テネシー大学マーチン校）に客員教授として四

カ月ほど滞在し、初めて米国の稲作事情に触れることができた。当時、そ

れほど詳細な情報がなかった。帰国後、写真や統計資料などをふんだんに講義で利用し、学生

の関心に応えた。また、UTM研究者との科研費

の日米大学間交流研究（三年間）、本学のUTM教員招聘事業などを利用

した交流により学生参加の場面も増え、教育的効果は大きく、学生の外国

への関心も強まった。一部を紹介する。

Aさんは短期大学からの編入女学生だった。大

学入試時、英語が不得意

で志望校に失敗したが、二年間の努力の結果、本

学編入合格した。英語が苦手だったが、UTMの先生と交流会で話した英語が通じたことから「話す英語」に興味を持ち、留学を決意した。UTMで将来のパートナーと知り合い、今は州都ナッシュビルに住んでいる。

BさんもAさんとはほぼ同じ経歴をたどっている。在学中、米国人の博士課程女性留学生が一年数カ月、私の研究室に所属していた。彼女も意思疎通のための片言の英語を使ったことが契機で英会話が好きになった。卒業後、海外資系の会社で働くようになった。

Cさんは学生時代から海外農業に興味を持っており、ミネソタ大学大学院に進学し、世界的なアグリビジネスのカーギル社に就職した。私のゼミ生ではなかったが大学院受験の時、推薦文を書いてあげた。本学ではだいぶ前から受験生向けの新聞広告を出しているが、彼がその中に大きく取り上げられていた。広報紙とはいえ「弘前大学在中、背中を押してくれた教員がいたから今の私がいる」と彼は述べていた。嬉しかった。

Dさんは昨年九月、アフリカ・ガボン国で二年間の海外青年協力隊の任務を終えて帰国し、同十二月に学部内で帰朝報告を行った。学生、教員四十名弱が未知の国の話しを聞いた。ガボン国はかつてフランスの植民地だったため公用語はフランス語。ほとんど言葉が分からない状態で勇敢に現地へ飛び込み、現地

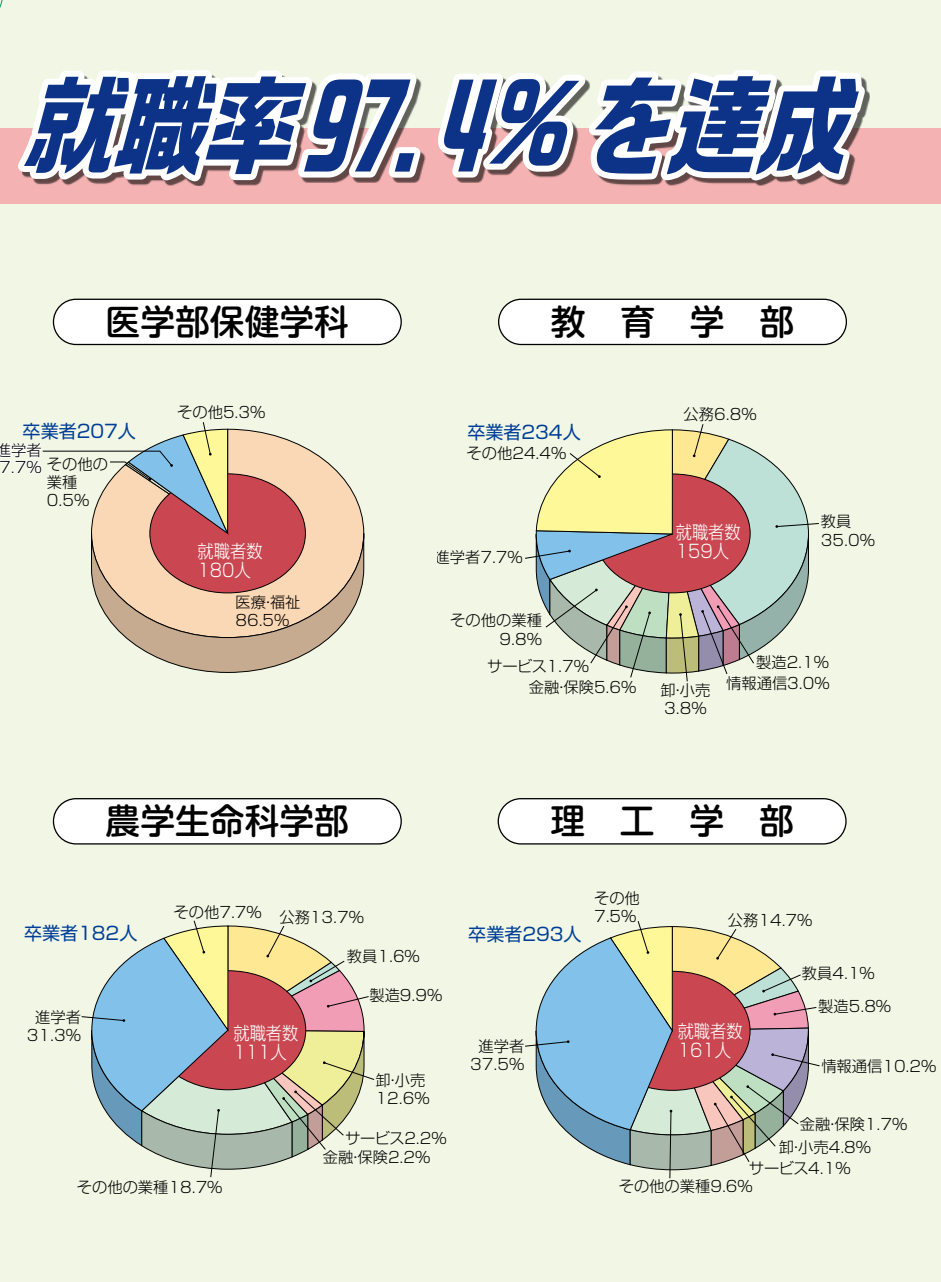
の農業発展に尽くしてきた。二年後、意思疎通以上の言語力を身につけて帰ってきた。これらの事例はすべてそれが必要と自覚すればできるのだという事例である。若い学生の可能性は高い。「できないのではなく、できるようにしていない」だけのことである。

弘前大学人文学部は、二〇一五年四月一日に創立五十年を迎える。一九六五年四月一日に文理学部から人文学部になって、五十年を経過したことになる。私事であるが九〇年一月着任の私は二十五年余りを勤務したので、ちょうど学部の歴史の半分だけ奉職したことになる。この間振り返ると、入試制度の変更が関係して学生の出身地が大きく変

化した。北東北、北海道出身者が多くを占め、私のゼミナールでは、関東以南の出身者はいなくなった。地域で活動する学生が増え、東奥日報、陸奥新報で成果が掲載されるのが少なくない。課題解決学習で自治体、地元企業の実務家と協働で問題解決を進めており、学びの方法も変わりつつある。

現在、校舎は午後九時まで学生が滞在できるが、時間まで必ず誰かしらおり、ある者は文献を丹念に読み、ある者はパソコンの画面をノートにまてている。レポートの作成をしている学生もいる。講義終了後、こうした学生が目につくことは教員としては嬉しい限りである。

人文学部は、文系の複合学部である。教員は講座、専門分野を越えて多くの共同研究を進めている。他分野の専門研究者



人文学部



人文学部 教授 保田 宗良

半世紀の総括

弘前大学人文学部は、二〇一五年四月一日に創立五十年を迎える。一九六五年四月一日に文理学部から人文学部になって、五十年を経過したことになる。私事であるが九〇年一月着任の私は二十五年余りを勤務したので、ちょうど学部の歴史の半分だけ奉職したことになる。この間振り返ると、入試制度の変更が関係して学生の出身地が大きく変



時間まで必ず誰かしらおり、ある者は文献を丹念に読み、ある者はパソコンの画面をノートにまてている。レポートの作成をしている学生もいる。講義終了後、こうした学生が目につくことは教員としては嬉しい限りである。

人文学部は、文系の複合学部である。教員は講座、専門分野を越えて多くの共同研究を進めている。他分野の専門研究者

同窓会通信

◆昭和45年経済学科卒業生同期会 二十六年九月二十五日、弘前市のいわき荘で県内外から二十八人が参加、恩師の地主豊先生を囲み夜が更けるまで歓談し旧交を深めました。先生からは「これから大事なことは何を目標に生きていくかということ、早く自分のこれからの生き方を設計すべきだ」との助言をいただき、お互い納得し、酒量もあがって楽しいひとときを過ごしました。

地元開催は二十四年ぶり、当日の集合場所は母校で、資料館や食堂などを見学。大学の変貌ぶりを

◆昭和44年卒業生は札幌近郊で開催 二十六年九月二十八日、北海道の札幌北広島クラッセホテルで道内外から二十一人が参加しました。道内での同期会は今回が三回目。

参加者の大半は、年金生活者が多い中、今も一部上場の社長として一線で活躍しているつわ者も

と北の大地で深夜まで学びの地・弘前を思い出しながら楽しく語りあっていました。

の知見から得るものは多く、複合学部ゆえに興味深い成果を輩出している。問題は、同窓生の帰属意識を高めることである。移動が多い卒業生の名簿を整備することは至難の業であり、五十周年を機に同窓会の整備に力点を置きたいと考えている。五十周年記念事業のために寄付金を募っているが、多くの方に寸志を頂ければ幸いである。

教育学部



文化財を後世に

(二社) 弘前文化財保存技術協会
理事長 今井 二三夫
(昭和45年 社会科卒)

私の生家は、弘前城のすぐそばで、小さい時から弘前公園が遊び場でした。

縄文時代の土器や石器を最初に見たのも本丸旧天守台の石垣下、蓮池護岸から拾ったものでした。小学校五年生の夏、ラジオで、日本最大の住居址と環状列石が岩木山麓の大森勝山遺跡で発見されたというニュースを聞き、翌日、父親の自転車を引っ張り出しえつちらおちちら発掘現場まで行ってみたのです。場所

もわからず腹も空き、りんご畑に座っていたら、畑のおばさんが声をかけてくれ、事情を話したら大笑い。アメ玉とコップの水をくれました。五十年以上も前のことですが、今も忘れない美味でした。

この時、発掘は休みだったのですが、おじさんが遺跡まで連れて行っ



大森勝山・縄文まつり

た。青森県は、北海道や秋田・岩手県とともに、縄文文化を世界文化遺産とすべく運動を展開し、平成二十一年一月、国の登録暫定リストに掲載しました。平泉・富土山・高岡などに先を越され、未だ日の目をみていません。県民の間でも縄文文化を世界文化遺産にという気運が薄いのではないかと感じます。

遺跡の数等から縄文時代の青森県は日本の首都だったかも。世界遺産登録を目指すのは、県民に縄文文化を知って頂く良い機会と考えています。

青森県考古学の土台を築きあげた弘前大学教育学部村越先生門下の一人として平成二十六年八月、考古学の知識はなくとも縄文文化に興味のある方へ遺跡めぐりや発掘現場見学会、縄文講座などを行う「弘前縄文の会」を設立しました。

また弘前には宮大工・左官屋・榎屋・細工師等、伝統の匠の技を駆使する多くの職人さんがいます。それが今日、めっきり少なくなり、後継者の職人さんも育っていません。弘前から職人さんが消えかかっているのです。

弘前の文化財や歴史的な文化遺産を弘前の人間の手で守れなくなる恐れがあります。

そこで平成二十六年九月二十四日、匠の技を残し伝えていこうという趣旨・目的に意気投合した九人を発起人として、一般社団法人「弘前文化財保存技術協会」を立ち上げました。

この事業を展開するには相当な経費を必要としますが、一人でも二人でも職人さんの育成支援を



同窓会情報

「これから続く女性医師のモデルになるよう頑張ってみればいいじゃないの」

私は平成九年に弘前大学医学部を卒業し現在の内分泌代謝内科(旧第三内科)に入局しました。実臨床では教科書通りに進む診療など皆無でした。新しい知識や医療手技を習得し、できることが増えることに充実感を味わいながらも慣れない仕事でへとへとでした。一方



私の欲張り人生

医学研究科地域医療
助教 柳町 幸
(平成9年 医学科卒)

と子育てのバランスをどのようにとっていかればいいのか全くわからないと愚痴をこぼしていた時に、母が冒頭の言葉を投げかけてくれました。

復職後はたくさんの方々にサポートして頂き、順調に滑り出しました。「案ずるより産むがやすし」でした。所属した研究グループでは、上司の先生方のご配慮のおかげで、診療と研究の両立ができました。シンポジウムやワークショップなどの発表や臨床栄養に関する論文や原稿を執筆する機会を沢山いただき、無事に医学博士を取得することが出来ました。復職前は日々の診療と子育てで手いっぱいになり、研究は無理だろうと考えていましたが、環境と気持ちが整えば、子育てをしながらでも研究はできるのだと実感しました。

また、子育てをするこ

バリアフリー化、郷土色前面に

附属図書館

弘前大学では平成二十五年度、二十六年度で附属図書館、学生支援センター、総合教育棟、総合研究棟(保健学系)の改修、新築を行いました。見違えるようになった各施設を紹介いたします。

学生が利用する図書館は建設から四十年以上が経過したため、老朽改修及び耐震改修を実施、さらに利便性を考え図書館の二階の北側にあった入り口は一階東側に変更し

ました。冬期間は階段が凍結するため利用者の安全確保を図ると同時に、車椅子でも出入りしやすいバリアフリー化を行いました。また、多様な学習環境を提供する学びの場としての「ラーニングコモンズ」を充実しました。

一階閲覧室のテーブルは物禁止ですが、ペットボトルの持ち込みが可能な休憩室になっています。施設改修で新たに九万九千冊の収蔵が可能

ベ物は禁止ですが、ペットボトルの持ち込みが可能な休憩室になっています。施設改修で新たに九万九千冊の収蔵が可能

で活躍されている女性医師の先輩方と交流を持つことが出来ます。女性医師となる先生方がたくさんいます。医学部生の方、県内で働いている女性医師の方で、ご興味のある方はご連絡ください。

附属図書館、学生支援センター、総合教育棟...

耐震改修で安全、新築も



一新した図書館正面入り口



アクティブ・ラーニング・エリア

の収蔵が可能

日本女医会青森県支部

日本女医会の支部会として青森県女医会があります。更に、地域ごと、弘前支部、青森支部、八戸支部があります。定例会議や講演会、食事会などを通して、様々な分野

で活躍されている女性医師の先輩方と交流を持つことが出来ます。女性医師となる先生方がたくさんいます。医学部生の方、県内で働いている女性医師の方で、ご興味のある方はご連絡ください。

東京同窓会

弘前大学東京事務所 都内港区に開設

事務局 伊森 英明

東京都内をはじめ首都圏における活動の拠点として、昨年十一月、東京都港区内に「国立大学法人弘前大学東京事務所」（事務所長・柏倉幾郎理事）が開設されました。

港区西新橋の町名表示ではありますが、都営三田線内幸町が直近の最寄り駅で、徒歩三分。JR・地下鉄各線の新橋駅（三月より上野・東京ラインの開業で首都圏各地から直通となります）日比谷口からでも徒歩八分。官庁街の霞ヶ関や一番新しく話題沸騰の森ビル「虎ノ門ヒルズ」も間近にそびえる、都内でも屈指のアクセス至便なところにあります。

入居している「クロスオフィス内幸町」の一階玄関には受付フロントがあり、取り次ぎ後、入館となります。セキュリティ



全館レンタルオフィスとなっており、事務室とは別に打ち合わせ用のラウンジやカンファレンスルーム（一部有料）もあり、用途にあわせてレンタルできるようなので、その分機動性が高くなっております。

東京事務所の執務時間は平日の十時から十八時まで。「産・官・学」の結節点として、関係各省



庁や各自自治体、他大学・研究施設、民間企業との情報交換、本学からの情報発信を業務とされる他、同窓生や入学希望者に対しての情報提供していきたいとのこと。同窓生の方々にもお気軽にお立ち寄り下さいとのことでした。

また、東京事務所独自のツイッターやフェイスブックも開設されており、アクセシビリティアップとアップデートな話題が発信されそうです。体制整備も含め、本格的な活動に関しては、新年度からのスタートとのことですが、今後の母校のさらなる発展のため、情報発信の拠点として、ご活躍を期待したいと思います。

国立大学法人弘前大学 東京事務所

〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18-6 クロスオフィス内幸町703号室
TEL 03-3519-5060
E-mail j-tokyo@hirosaki-u.ac.jp
twitter https://twitter.com/hirodaiTOKYO
HP http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/about/satellite/

になりました。なお同館の収蔵図書は六十六万冊とのこと。

学食は冷暖房で快適に

学生支援センター 学生、教職員の福利厚生の実施を目的に建設された施設。建設から三十六年以上も経過したことから老朽化が激しく耐震改修、スロープの設置やバリアフリー化も行いました。学生食堂は内部を全面改装し冷暖房設備も完備、夏でも快適に食事をとることが出来るようになりまし。二階にあるレストラン・スクーラムはグリーンと広く、これまでに以上に食事もゆったりとれます。ちなみに学生食堂の売れ筋の一番は豚生焼きで、次いで油淋鶏、チキンおろしダレと続いています。



昼食時は学生でにぎわう食堂

総合教育棟

建築後三十年以上も経過



保健学科校舎

保健学研究科校舎は建設から三十年以上も経過した老朽化が激しい施設で、耐震改修と内外改修を行いました。また、保健学研究科の改組で慢性的に教室棟の不足をきたしていたため、これにに対応するため、諸教室等の再配置を行いスペースの有効利用を図りました。また、被ばく医療教育研究

過していたため老朽化が激しく、耐震改修によって学生の安全が確保されました。また、講義室には椅子と机がスムーズに移動出来る装置を設置しています。

被ばく医療研究に期待

総合研究棟（保健学系） 保健学研究科校舎は建設から三十年以上も経過した老朽化が激しい施設で、耐震改修と内外改修を行いました。また、保健学研究科の改組で慢性的に教室棟の不足をきたしていたため、これにに対応するため、諸教室等の再配置を行いスペースの有効利用を図りました。また、被ばく医療教育研究

大鵬会

道内の活動について



会長 土棟 康司
(昭和39年 文理学部数学科卒)

本会は、「弘前大学・北海道高等学校教職員同窓会（通称・大鵬会）」とおとりかい」といい、弘前大学の出身者で、北海道在住の現職又は退職した教職員を会員とし、会員相互の親睦と現職教職員の職能向上を図ることを目的として活動しています。発足は昭和四十六年、ちょうど札幌市営地下鉄南北線が開業した年、今年で四十四年目になります。会員数は約四百名で、次のような活

教育活動について丁寧かつ熱い思いでお話しを頂戴し、参加者の皆が母校に思いを馳せることになっていきます。弘前大学、さらには弘前の息吹を感じさせて頂いた学長の講話に毎回感謝しております。



平成25年度総会・懇親会（平成26年1月9日（木）東京ドームホテル札幌「小石川」）

2 北海道教育セミナー

これまで北海道高等学校教育の推進に寄与してきた弘前大学出身教職員の更なる力量形成に資することを目的として実施しており、昨年七月二十日土曜日で八回目の開催となりました。弘前大学からは、一月の総会と同じく、平成二十一年度から平成二十四年度までの正彦学長、平成二十四年度からは佐藤敬学長にご来臨頂き、大学の現況等をお話を頂戴しています。学長からは毎回、私たちの母校の充実した研究・



第8回北海道教育セミナー（平成26年7月26日（土）かてる2・7）

3 理工学部との交流会

を頂戴しています。理工学部主催の札幌での保護者懇談会・進学相談会に合わせて、理工学部教員の皆様と共に本学会員による交流会を毎年行っており、昨年は九月二十日土曜日に開催されました。



平成26年度理工学部との交流会（平成26年9月20日（土）東京ドームホテル札幌「ダンテ」）

本会は、一時期総会等の参加者が減少していましたが、遠藤前学長、佐藤現学長を迎え、お力添えを得て拡充の一途にあります。これも両氏をはじめ関係の皆様のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げますとともに、母校とのつながりを一層強め、これまで以上に力になりたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

末筆になりますが、弘前大学の発展並びに同窓会の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、活動の報告とさせていただきます。



人文社会科学部 徐明

(中国)

光陰矢のごとし、気がつけば弘前に来て八年を迎えようとしています。

弘前の四季ははっきりとしており、どの季節も美しく感じます。中でも春の美しさにはとりわけ驚いています。

初めて弘前を訪れたの



人文学部

アンパラット・ピヤチャット (タイ王国)

私はタイのコンケン大学から交換留学生として弘前大学に留学しています。弘前に着いた時、自分が勉強した日本語とこの日本語が違うと感じていました。一、二週間過ごしてだんだん聞き取れるようになりました。

最初春に来た時はあまり寒くないと思ったが、実はとても寒いと思いま



は厳冬の二月でした。空から舞う雪はまるで降りやむことを知らないかのようでした。道の両端には厚い雪の壁が長く続き、いったいこれはいつ解けるのかしらと感じました。ところが、立春を過ぎた頃には、いよいよ弘前にも春の兆しが訪れます。太陽の麗らかな優しき光、積もった雪の合間

美しい弘前の春

から垣間見える土の色、暖かい風のおいしき近づく春の足音に心も浮き立ちます。

四月になると、厳しい冬を耐えた桜の木には、ピンク色の小さなつぼみが見えはじめます。下旬を迎えると、全国でも有数の桜の名所「弘前公園」

では二千六百本もの桜が絢爛に咲き誇ります。満開の桜はもちろんですが、舞い散る花びらもまた美しく、この花びらが公園内堀の水面を埋め尽くす「花筏」も風流な景色です。

毎年、家族で何度も公園に訪れ、この美しい風景を堪能しています。三年前の桜が見頃に生まれ

た息子も、今では「シヤクラ（さくら）、きれいな〜」と言って春を楽しんでいます。

五月になると今度は可憐な白いりんごの花が咲き始め、岩木山の麓を白く染め上げます。弘前の春は語りきれないほどの美しさです。四季を感じながら、弘前での生活を家族とともにこれからも楽しみたいと思います。

親切に感動

思います。時々自分の国の料理を作って一緒に食べます。皆さんは留学生だから話しかけやすいです。

大学で日本人の友達があまりいなかったが、サークルに入った後たくさん日本人の友達ができ

3学部で節目祝う

60周年の農学生命科学部 人文と理工はともに50周年

弘前大学は今年、三つの学部で節目を迎えます。農学生命科学部が六十周年、人文学部と理工学部がそれぞれ五十周年です。夏から秋にかけてイベントや式典がありま

す。三学部の沿革を振り返ってみました。

弘大は昭和二十四年五月に発足。当初は文理学部、教育学部、医学の三学部でしたが、現在は五

学部を擁する総合大学に発展しました。六十周年を迎える農学生命科学部は、農学部として昭和三十年設置、平成九年の改組で現名称に。生物学科、分子生命

園芸農学科、地域環境工学科の五学科体制。七月四日に式典を行います。

人文学部は昭和四十年、文理学部改組で発足し経済学科、文学科でスタート。現在は人間文化課程、現代社会課程、経済経営課程の三課程体制。九月に節目を祝いま

す。理工学部も昭和四十年、文理学部改組で理工部に。平成九年の改組で理工学部となり、数理科

学科、物理科学科、物質科学科、地球環境学科、電子情報工学科、知能機械工学科の六学科体制です。十月十七、十八日に式典など行います。

弘前大学同窓会役員名簿

名譽顧問	吉田 豊	弘前大学 元学長
顧問	遠藤 正彦	弘前大学 前学長
顧問	佐藤 敬	弘前大学 学長
会長	三上 眞	弘前大学 学長
副会長	岡井 一治	農学生命科学部同窓会会長
副会長	西澤 信行	農学生命科学部同窓会会長
副会長	千葉 敏雄	農学生命科学部同窓会会長
副会長	上田 礼仁	農学生命科学部同窓会会長
理事	建部 正栄	農学生命科学部同窓会会長
理事	相馬 睦男	農学生命科学部同窓会会長
理事	工藤 晃	農学生命科学部同窓会会長
理事	鳴海 暢	農学生命科学部同窓会会長
理事	小山内 満	農学生命科学部同窓会会長
理事	千葉 賢二	農学生命科学部同窓会会長
理事	三浦 雅昭	農学生命科学部同窓会会長
理事	泉谷 潤	農学生命科学部同窓会会長
理事	小笠原 潤	農学生命科学部同窓会会長
理事	糠塚 いそし	農学生命科学部同窓会会長

平成25年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部		
項 目	平成25年度予算額	平成25年度決算額
前年度繰越分	2,453,744	2,453,744
同窓会費		
人文学部同窓会	276,000	276,000
教育学部同窓会	192,000	192,000
医学部医学科同窓会	85,600	85,600
医学部保健学科さくら会	160,000	160,000
理工学部同窓会	240,000	240,000
農学生命科学部同窓会	148,000	148,000
預金決算利息	400	358
計	3,555,744	3,555,702
2. 支出の部		
項 目	平成25年度予算額	平成25年度決算額
印刷費	400,000	672,111
役務費	380,072	411,058
会議費	50,000	50,448
旅費	50,000	0
通信費	10,000	7,976
消耗品費	3,000	1,202
雑費	40,000	22,145
文化祭費	150,000	0
東日本大震災支援活動費	133,936	133,340
予備費	2,338,736	2,257,422
計	3,555,744	3,555,702

平成26年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部		
項 目	平成25年度決算額	平成26年度予算額
前年度繰越分	2,453,744	2,257,422
同窓会費		
人文学部同窓会	276,000	241,500
教育学部同窓会	192,000	168,000
医学部医学科同窓会	85,600	74,900
医学部保健学科さくら会	160,000	140,000
理工学部同窓会	240,000	210,000
農学生命科学部同窓会	148,000	129,500
預金決算利息等	358	400
計	3,555,702	3,221,722
2. 支出の部		
項 目	平成25年度決算額	平成26年度予算額
印刷費	672,111	350,000
役務費	411,058	266,546
会議費	50,448	40,000
旅費	0	5,000
通信費	7,976	10,000
消耗品費	1,202	3,000
雑費	22,145	30,000
文化祭費	0	0
東日本大震災支援活動助成費	133,340	0
繰り越し・予備費	2,257,422	2,517,176
計	3,555,702	3,221,722

平成26年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容		
(1) 大学現況内容等の会報(年1回)の発行		
(2) 各学部同窓会間の連絡調整		
(3) 弘前大学同窓会ホームページ活用業務		
(4) 大学関係催事等への後援・協賛		
2. 事業費		
(1) 印刷費	350,000円	
(2) 役務費	266,546円	
(3) 会議費	40,000円	
(4) 旅費	5,000円	
(5) 通信費	10,000円	
(6) 消耗品費	3,000円	
(7) 雑費	30,000円	
事業費計	704,546円	
平成26年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業計画		
1. 事業内容		
(1) 国際化教育支援		
2. 事業費		
(1) TOEIC副賞	200,000円	
事業費計	200,000円	

平成25年度 弘前大学同窓会「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部		
項 目	平成25年度予算額	平成25年度決算額
前年度繰越分	2,498,900	2,498,900
預金決算利息	500	405
計	2,499,400	2,499,305
2. 支出の部		
項 目	平成25年度予算額	平成25年度決算額
TOEIC受賞者副賞	200,000	200,000
予備費	2,299,400	2,299,305
計	2,499,400	2,499,305
平成26年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業予算書		
1. 収入の部		
項 目	平成25年度決算額	平成26年度予算額
前年度繰越分	2,498,900	2,299,305
預金決算利息等	405	500
計	2,499,305	2,299,805
2. 支出の部		
項 目	平成25年度決算額	平成26年度予算額
TOEIC副賞	200,000	200,000
繰り越し・予備費	2,299,305	2,099,805
計	2,499,305	2,299,805

編集後記

◇同窓会報第十六号は佐藤学長から「弘前大学将来ビジョン」、いわゆる第三期中期目標・計画の基本的な考え方を、三上会長からは、策定の評価を頂いた。本学のスローガン「世界に発信し、地域と共に創造する」に相応しい飛躍を期待したい。

◇特集は就職状況を取り上げた。昨年の就職率は近年になく高く、これは十年に及ぶ学生就職支援センターの努力の賜である。石川センター長に敬意を表する。今年春卒業の就職率は昨年を上回りそうとのこと。喜ばしい限りだ。(慕)

会報編集委員名簿

委員長 中坪 勝

大倉 邦夫 対馬 浩二
相馬 正栄 佐藤 眞
中村 光男 小枝 周平
三上 佳澄 一條 健司
中澤 侃志 戸羽 隆宏
松崎 正敏 津田 良司
伊森 英明 工藤 睦男



弘前大学同窓会事務局
0172(39)3490
0172(36)2132
jms3490@hirosaki-u.ac.jp